

兵庫県医師会医療支援チーム（第24陣）「宮城県災害支援現地報告」

理事 菊池 英彰

4月6～8日派遣時と比較し、市内の道路は修復され、路肩の瓦礫もあらかた撤去されており、通行は比較的スムーズであった。9日から授業再開とのことで、石巻中学では教室の被災者は体育館に移動していた。住吉・山下中学も同様に体育館へ集約されている。避難者数は各所とも減少している。エリア4では、インフルエンザ、感染性胃腸炎などの流行は見られない。風邪症状を訴える人は散見される。個別の医療ニーズは少なく、巡回に行くが結構ひまである。なるべく復活している診療所を紹介する。巡回頻度を減らすことも考慮したい。震災後2カ月が経過し、震災ストレスからくる様々な症状が見られた。5歳の幼児が眉毛を全部抜いてしまう、小学校の教頭が精神的に落ち込んでしまう、といったケースが見られた。保健師から心のケアチームに連絡を取っていただき対処した。震災後から血圧が高くなった人が、40代50代に多く認められ、これもストレスからくるものと考えられた。劣悪な避難所の環境が大いに関係していると思われる。結局、安全な場所に一刻も早く仮設住宅を作り、下水・移動手段・医療施設を整備することが解決策になる。それまで、状況が悪化しないよう応急的対策をすることが私どもの責務であると考えます。

